

みやぎ林業イノベーション推進に関する覚書

宮城県は、東北地方を縦貫する奥羽山脈に連なる栗駒山、船形山、蔵王連峰などの雄大な山々や、日本三景の一つである松島、三陸復興国立公園をはじめとする海岸線の松林など、緑あふれる豊かな森林に囲まれ、四季折々の魅力ある美しい風土を形成してきた。

県民の生活の中で、森林は、二酸化炭素の吸収源として地球温暖化を防止し、近年多発する大雨等による土砂災害や洪水から県土を保全するとともに、水源を涵養し、多種多様な生物の生育・生息の場を提供するなど、極めて貴重な多面的機能を発揮している。

我々は、先人達が守り育ててきたこの森林を適切に管理・利用し、林業・木材産業の持続性を高め、将来にわたり引き継がれる森林づくりを進めていかなければならない。

令和3年度から、宮城県では「新・宮城の将来ビジョン」による県政運営が始まったところであり、「人」づくり、「地域」づくりの視点とともに、地域の課題解決に向け、先進的技術の活用や異分野との融合・連携という「イノベーション」の視点を新たに加え、政策全般を推進していくこととしている。

森林・林業分野では、「みやぎ森と緑の県民条例基本計画～新みやぎ森林・林業の将来ビジョン～」に基づき、林業・木材産業の一層の産業力強化と森林の持つ多面的機能の更なる発揮に向けた取組を推進していくとともに、喫緊の課題である林業の担い手確保・育成を図るため、官民が連携・協働して設立した「みやぎ森林・林業未来創造機構」の活動が期待される場所である。

これらの取組を進めるに当たり、民有林と国有林が連携して取り組んでいくことが重要であることから、宮城県と東北森林管理局はイノベーション推進の視点を持って互いに連携・協力して次の事項に取り組むこととし、「みやぎ林業イノベーション推進に関する覚書」を締結する。

- 1 「みやぎ森林・林業未来創造機構」を核とした人材確保・育成の推進
- 2 県産材の安定供給と木材需要の創出・拡大
- 3 低コスト林業による再生林の推進
- 4 復旧した海岸防災林の活用や森林サービス産業等を通じた地域活性化の推進
- 5 その他「みやぎ森と緑の県民条例基本計画」に関する施策の推進

令和3年11月22日

宮城県知事
村井嘉浩

東北森林管理局長
宮澤俊輔